



いよいよ明日から2月です。2月も楽しいことがいっぱいです！
体育で今、盛り上がっているのが「たんぼ」です！

アビラ登山が無事終わりました。体育では、新しい種目に取り組んでいます。その名も「たんぼ」。機敏さとボールコントロールが要求されます。歓声が体育館に響きます。

■ 2月11日(土) 第3回フー-参観・体験入学・親子スポーツを開催します！

予定していた年3回のフー-参観・体験入学・親子スポーツの3回目です。13日(月)を振替休日とします。

■ 2月18日(土) 日本文化週間で加太鼓を大勢の観客の前で演奏します！

昨年同様この日を授業日とし、学校で午前中授業、午後和太鼓発表。20日(月)を振替休日とします。

■ 2月21日(火) マリア校との交流会を本校で開催します！

11月に続いてのマリア校交流です。今回は本校で行います。前回同様、どうぞ参観してください。

♪ 2月21日(火) 第2回音楽鑑賞会(コントラバス)を本校体育館で開催します！

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その149)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 44

今回も、西岡裕知先生の「カラカス太鼓」創設の頃の話の続きです。読んでいて、こちらまで熱くなってきました。当時の先生方の、熱意には頭が下がります。歴史にはいつも、こうした熱い先駆者がいたことを私たちは忘れてはいけません。

■ **カラカス太鼓ができるまで** (休鼓発注から、「アビラのひびき」完成まで) ■ 平成6年(1994年)6月、創立20周年を機にカラカス日本人学校に太鼓のチームをつくることが職員会で決定された。とは言っても、職員で太鼓指導を専門としてきた者はおらず(私は偶然、前任校で太鼓指導にあたってはいたが)、手探りの状態でのスタートであった。さっそく日本から和太鼓のカタログを取り寄せ、検討に入った。当時約70名の児童生徒であったが、全員が活躍できるように太鼓をそろえることは予算的に無理なので、太鼓の種類と数を決める必要に迫られた。迫力があり最も和太鼓らしい雰囲気をもつ宮太鼓は多くほしいが、そうすると全体の太鼓の数が少なくなり太鼓を打つメンバーが限られてくる。逆に締太鼓などは数を多くそろえることができるが、全体に迫力を欠く。最終的には宮太鼓1台、長胴太鼓6台、平太鼓6台、締太鼓4台に決定した。それに横笛40本とばちを加えて日本に注文した。送料込みで121万円強。9月30日に日本から発送、11月22日、太平洋を越えてカラカスに太鼓が着いた。真新しい皮の張られた和太鼓を見て懐かしい気持ちを抱いた我々は、やはり日本人なのだを再認識した。

さて、太鼓の到着までの間に台を作ることにした。実際のところ、台まで日本から購入する予算がなかったのである。現物を見ないまま設計に入るといふ心配はあったが、太鼓の到着後すぐに練習を開始したかった。この設計を担当したのは奥原教諭。台の写真とカタログの数値をもとに図面を引き、業者に依頼した。宮太鼓の曲面に当たる部分の台の切り方は、写真からアルを計算して出した。これだけは現物がきてびつたりと納まるかどうか心配であった。梱包をほどいて台の上に見事に安定した太鼓を見たときの奥原教諭の感動はいかほどのものであったろうか。

太鼓チームをつくと決定してから、演奏する曲を決める作業に入った。当面は太鼓と横笛の曲を2曲、太鼓にふさわしいような歌唱曲を1曲の、計3曲を20周年記念式典で披露したいと考えていたが、実際のところまったく具体的なものはなかった。既成の和太鼓の楽譜を入手して、それを演奏することも検討したが、やはり我々のオリジナリティがほしいということで、全部作曲する方向に進めた。

作曲を担当した私は、1曲目のテーマを各太鼓によるソロに決めた。まず太鼓の部分の全体のモチーフを書き、同時に横笛のメロディも書いた。こうやって骨格をつくってから、みんなで味付けをしていくことにした。味付けにあたっては、思い付いたらとにかくそれを太鼓でたたいてみる、たたきながら曲を模索する、横笛のメロディに合わせて太鼓のリズムを探る……。やりながら、これはいい！というものを確認していく。ときには、アパートで酒を飲みながら曲想をつくらせていったこともあった。太鼓の代わりに他の人の鞆をたたいて曲を練る者もいた。熱心さのあまりと思うと、怒りに怒れない……。こんな楽しい夜もあった。ほぼ完成という段階で最終の詰めをしているときに、演奏を聞いた藤内教頭から



「最後の部分がさびしい、もっともりあげてもいい」という意見があった。ソロの部分がすんだらあっさり終わる構成だったが、まさに指摘の通り。そこで最初のモチーフの再現を試みた。この一言のおかげで、さらにかっちりとした構成になった。

こうして生まれたのが、カラカス太鼓一の章「アビラのひびき」である。題名はみんなが良いと思う案を出し合って投票で決めた。この「アビラのひびき」という第1曲目にふさわしい題名の考案者は祐川教諭である。カラカスの象徴アビラ山にちなみ、その雄大な姿を彷彿とさせるような曲にびつたりの名前である。時に平成7年(1995年)1月、全くの手作りの曲が太鼓の素人集団の熱意によって完成した。(写真：当時の練習風景) つづく